



## ガラスが「割れる」

昨日の放課後、国語科に戻って仕事をしていたら、●●さんがやってきて、まじめな態度で国語科の扉をノックし、「失礼します」と挨拶をして入ってきた。何だろうと思っていると、さすが●●さん、日本人らしい？報告である。

「先生、15Rの窓ガラスが割れました…」

もちろん、ガラスは勝手に割れない（笑）のであって、割った者がいるわけだが、日本人である●●さんは、極めて正統な言い回しで事態を担任に告げたわけである。

＊

以前、完了の助動詞の「つ」と「ぬ」を勉強した時に話したが、日本では、お茶は淹れるものではなく「はいる」ものであり（「あなた～、お茶がはいました♡」）、食事は作るものではなく「できる」ものであり（「あなた～、食事の用意ができました♡」）、結婚はすることを決めるものではなく「することになる」ものなのである（「私たち、このたび結婚することになりました♡」）、という話をしたが覚えているだろうか？ だから、ガラスも割れるものなのである…？

＊

で、その言葉遣いに感動しながらも（笑）慌てて教室にたどり着くと、●●君と隣のクラスのT君が大きく割れたガラスの始末をしており、それを数名の女子が手伝っていた。（●●君は何も手伝わずにゲームをしていた…）。で、私が最初に●●君たちに向けた言葉が、

「怪我はないか？」

であるが、これには出典がある。

＊

これから勉強する『論語』の中に、

厩焚けたり。子、朝より退きて曰はく、「人を傷へるか」と。馬を問はず。（郷党）とある。どう読むのかというと、

うまや、やけたり（馬屋が火事になった）。し、ちょう（朝廷）よりしりぞきて（退出して）いはく、「ひとをそこなへるか（怪我人はなかったか）」と。うまをとはず（馬については質問しなかった）。

である。孔子は自分の家の馬屋が火事になったという報告を受けて帰宅したのだが、その際、「怪我人はいなかったか」というのが第一声で、馬のことは気にしていなかったという逸話である。つまり、大切にしていた馬のことよりも、先ず家人のことを心配する、思いやり（＝「恕」）あるれる人柄だったというわけだ。

＊

で、私もとりあえず？思いやりを示してみたわけだ。二人ともたいした怪我がなくてよかったが、ふざけて大きな体がガラスにぶつかれば、ガラスは「割れる」のである。

9年間日比谷にいるが、教室でふざけてガラスが「割れた」記憶はない。（ついでに、生徒ホールの椅子が「壊れた」記憶もない。）ガラスが「割れる」ようなクラスもあれば、そうでないクラスもある。そうでないクラスが「日比谷の普通のクラス」である。